6/20

大学当局は団交に応じよ！

斗争ニュース

(NO.2)
部落問題研究会
カリキュラム
斗争委員会
1969.6.20

昨日我々は、「第二次科目斗争宣言」において、現在の大学斗争の中での部落研のそう基本的な方向を大衆的に明らかにした。

東大斗争において、異態的に提起された問題、つまり大学の基本的機能である教育、研究など、権力者（資本）の意思のもとにくみこまれているのではないか、そういう問題に対して、我々部落研は、教育における差別体制、内容をくみこもうとする権力と、それに対して人権性、それを貫徹するために権力支配からの自由を対置するところの教育労働者、学生を中心とした民主主義勢力との斗争であるということを確認し、前述した現在問われている課題に対して主体的にかかわり、現実に存在している大学を徹底的に批判し、告発する中で、差別とそう大学を創出しようと決意したのである。

我々は、日本における矛盾の焦点として、存在せしめられている部落、日常的課題といわれている部落問題に対して何ら研究、教育をおこなわず、社会の矛盾から無関係に、その無関係な実は、権力側のねらいであったのであるが、教育、研究活動をつづけ、「潜在的差別者」を大量に作り出しつづけた大学に対し、「大学というものは人民の幸福を追求し、社会矛盾に対処しなければならないのだ」という理念をつきつけ、部落解放の広範なもりあがりを背景に第一次科目斗争をそい、我々は「差別とそう大学を創出しようし」というスローガンのもとに、科目斗争を実用している。それは同時に、全カリキュラム検討、再編成へという一般的課題にいたる突破口となりうるだろうし、またそれを突破口として全学的課題にまで高めなければ、差別とそう大学は創出されえないだろう。

全ての学友、院生、助手のみなさん、斗争に是非勝利するために全能力を傾けて大学の本質的矛盾であるところの研究、教育内容の批判をすすめる中で全学カリキュラム再編成への斗争をうくりあげよう。

我々、部落研カリキュラム斗争委員会は、差別とそう斗争をとっていない大学当局へ社会討論における学位の不平等を問う　同和教育科目が設置されていない事実をみよ！）とりわけ「差別容認の大学」の最高責任者となっている学長、教養部運営委員会、学生部長との大衆団交を要求する。その過程を、我々は、現実の大学を批判、告発し、社会討論の内容充実、同和教育設置を斗争を通じ、差別とそう大学の内容、運動を創りあげていくであろう。

大学当局に再度要求する。我々との団交に応じよ！

大学のあり方、また「大学」を「大学」として存在たらしめようとするなら、我々の団交要求を拒否することは断じて許されない。

部落研カリキュラム斗争委員会